



# Newsletter

No.37 (2018.7.20 発行)

## JAICOWS 2017 年度第 4 回役員会報告

日 時：2018 年 1 月 27 日（土）12：00～12：45  
会 場：青山学院大学 青山キャンパス 8 号館 4 階会議室  
出 席：国枝、袖井、直井、田原、羽場（5 名）  
議 事：

### 1. 総会の内容について

当日の総会の議事及び内容について田原事務局長作成資料に基づき、田原および羽場会長より説明がなされ、全体で討議した。関連して、以下の提案や意見交換がなされた。

#### (1) 2017 年度活動中間報告について

- ・非常勤講師アンケートの回答が 100 を超えた。
- ・日本学術会議シンポジウム「学術の再生産が危ない！」（2017 年 9 月 18 日、於青山学院大学）について、特に正規職員が次々に非正規職員に置き換わっていることの問題点が紹介された。

#### (2) 2017 年度会計中間報告について

会費未納者名を年度ごとに提示し役員の方からできるだけ声がけをしていくことが確認された。

#### (3) 2018 年度事業計画について

- ・非常勤講師アンケートの分析については、廣瀬役員、直井役員、袖井役員など社会調査分析の専門家の協力を得て行う。秋以降に首都圏大学非常勤講師組合および関西大学非常勤講師組合から代表の方を招いてシンポジウムを開催する（関西は可能なら交通費支給）。アンケートの回答について引き続き呼びかけを行う（2 月末締め切り、3 月末まで延期予定）。
- ・研究会の一部は、それぞれの教員持ち回りで大学の講義に合わせて公開講座として実施してはどうか、学生たちや多くの方々に聞いてもらうことができると提案され了承された。今後の予定として何人かの候補者があがり、可能ならば JAICOWS 会員及び一般向けに役員会と合わせて実施し、各講演の様子は講演者の了承を得てビデオ撮影し、20 分程度のダイジェスト版にしてホームページや YouTube にアップしてはどうかと提案があり了承された。
- ・研究会・シンポジウム・講演会の広報先についてリストを作成し、情報を共有する（学会、読売、朝日、東京新聞など）。
- ・第 24 期日本学術会議における女性の会員・連携会員が計 600 名時代になり、JAICOWS の活動方針を検討すべき時期を迎えた。JAICOWS は、日本学術会議の女性会員・連携会員、日本学術会議のジェンダー関連学会コンソーシアム、男女共同参画学協会連絡協議会（理系・文系）との連携を目指し、今後の活動を検討する委員会の立ち上げを検討する（検討委員会については JAICOWS 会員の諸先生にも入っていただき総合的に討議することとする）。
- ・新会員の増加は、会の活性化、会費納入による予算の拡大にも寄与するので、積極的に呼びかけるように努める。

(4) 2018年度予算案について

- ・アンケートの入力作業アルバイト代として、事務費より5万円を計上する。
- ・ニュースレターに出版社からの広告を掲載し、収入を増やすと共に出版物の広報に役立てる（半ページ1万5千円、1ページ3万円程度を予定）。広告の内容は、ジェンダー関係を中心に会員の出版物とする。会員にも広告集めの協力を呼びかける。

(5) その他

羽場会長から、1期で交代する予定で活動してきたこと、非常勤組合のアンケートについても1昨年から昨年に終わらせる努力を行ったが、アンケート内容決定と送付に多くの時間を要し結果的に期をまたいでしまったことが報告された。とりあえず非常勤講師のアンケートとその整理を重要な課題として完遂させること、また600人時代に即応した新たな活動の検討を行うため、もう1期継続するという会長からの申し出があり、役員会で了承された。

## JAICOWS 2017年度総会報告

日 時：2018年1月27日（土）13：00～13：45

会 場：青山学院大学 青山キャンパス 8号館 4階会議室

議 事：

以下の各議案について田原淳子事務局長の作成資料に基づき、田原および羽場久美子会長より説明と提案がなされ、全体で討議した。また、当日の役員会の審議を受けて、羽場会長から提案がなされ、承認された。

### 1. 2017年度活動報告について

- (1) 役員会の開催（2017年5月9日、9月19日、11月26日、2018年1月27日）
- (2) 総会の開催（2018年1月27日）
- (3) 研究会・講演会の開催

・第1回研究会

日 時：2017年5月9日（火）19:00～20:00

場 所：青山学院大学 総研ビル10階 第18会議室

テーマと講師：「格差・貧困をどう捉えるかージェンダーの視点からー」大沢真理先生（東京大学）

・第2回研究会

日 時：2017年11月26日（日）14:00～17:00

場 所：青山学院大学 総研ビル10階 第17会議室

テーマと講師：「女性内の階層性を考える」白波瀬佐和子先生（東京大学）

「高齢化社会の予防医学ー老化と健康ー」湯村和子先生（国際医療福祉大学病院予防医学センター）

・第3回研究会

日 時：2018年1月27日（土）

場 所：青山学院大学 8号館 4階会議室

テーマと講師：

・「ダイバーシティとは何か？ー女性研究者支援との関わりでー」江原由美子先生（横浜国立大学）

・「グローバル化時代の先進国女性の貧困（日本社会の底辺を支える女性）」

羽場久美子会長（青山学院大学）

(4) 日本学術会議ジェンダー関連の活動への参画

- ・シンポジウム「学術の再生産が危ない！」

主 催：日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会

日 時：9月18日（月）13:00～16:30

場 所：青山学院大学 総研ビル 12階 大会議室

テーマと講師：羽場久美子会長（青山学院大学）

「女性研究者の貧困をどう解決するか？」（JAICOWS として）

- ・シンポジウム「ジェンダー平等政策の今を問う」

主 催：日本学術会議法学委員会ジェンダー法分科会・同社会学委員会ジェンダー政策分科会

日 時：9月23日（土）13:00～17:00

場 所：学習院大学 目白キャンパス 西2号館 301 教室

登 壇：廣瀬真理子先生「高齢者介護政策とジェンダー平等」

浅倉むつ子先生「『働き方改革』とジェンダー平等」

(5) ニュースレターの発行（第35号、第36号）

(6) 会員増に向けた取り組み

第24期日本学術会議における女性の会員・連携会員に JAICOWS 入会案内とニュースレター第36号を発送（2018年1月）

(7) 非常勤講師を対象としたアンケート調査の実施

(8) ホームページの更新

2. 2017年度会計報告について（p.4 参照）

3. 2018年度事業計画について

(1) 役員会の開催

(2) 総会の開催

(3) 研究会・シンポジウムの開催

研究会はテーマや講師に応じて、一部は大学の講義に合わせて実施する。講演の様子はビデオ撮影し、20分程度のダイジェスト版にしてホームページや YouTube にアップする。

(4) ニュースレターの発行（2回）

(5) アンケート調査の分析

非常勤講師アンケート調査の分析結果を受けて、秋以降に首都圏および関西の大学非常勤講師組合の代表の方を招いてシンポジウムを開催する。

(6) その他（女性研究者を活性化する活動など）

日本学術会議の女性会員・連携会員、日本学術会議のジェンダー関連学会コンソーシアム、男女共同参画学協会連絡協議会（理系・文系）との連携を目指し、今後の活動を検討する委員会の立ち上げを検討する。

4. 2018年度予算案について（p.4 参照）

## 2017年度 会計決算報告

### 1. 収入の部

(単位:円)

勘定科目	①予算額	②決算額	差異 (②-①)	備考
繰越金	453,138	453,138	0	
会費	510,000	600,000	25,000	107/116人分 (92.2%)
利子	63	3	△60	
寄附	0	0	0	
収入合計	963,138	1,053,141	24,940	

### 2. 支出の部

(単位:円)

勘定科目	①予算額	②決算額	差異 (①-②)	備考
通信費	40,000	15,696	24,304	請求書発送費, はがき代等
Newsletter印刷費	120,000	153,986	△33,986	ニュースレターNo.35 No.36
Newsletter 発送費	20,000	162,525	△142,525	日本学術関連会員分 (554名) を含む
行事費	50,000	20,000	30,000	アルバイト謝金
会議費	25,000	24,367	633	弁当代, コピー代等
事務費	50,000	26,244	23,756	封筒, 請求書作成費含む
学会業務委託費	440,000	432,000	8,000	
備品	5,000	4,104	896	振込手数料等
小計	750,000	838,922	△88,922	
次年度繰越金	213,138	214,219		
支出合計	963,138	1,053,141		

※会員数 116名 (2018年3月31日現在)

浅倉むつ子先生に会計監査を依頼し、適切かつ正確であるをご承認いただきました。

## 2018年度 予算案

### 1. 収入の部

(単位:円)

勘定科目	2017年度予算	中間決算 (案)	2018年度予算	備考
会費	510,000	480,000	540,000	108/116 (93%)
利子	63	2	4	
その他	0	0	100,000	寄付金
小計	510,063	480,002	640,004	
前年度繰越金	285,999	285,999	63,253	
収入合計	796,062	766,001	703,257	

### 2. 支出の部

勘定科目	2017年度予算	中間決算 (案)	2018年度予算	備考
通信費	40,000	15,071	20,000	会員勧誘切手代, 会費請求書発送費, 総会案内はがき代等
Newsletter印刷費	120,000	138,164	120,000	No.37, No.38

Newsletter 発送費	20,000	39,146	20,000	
行事費	50,000	20,000	50,000	講師謝金等
会議費	25,000	24,367	25,000	弁当代等
事務費	50,000	34,000	20,000	HP 作業費等
学会業務委託費	440,000	432,000	440,000	
備品等	5,000	0	5,000	振込手数料等
小計	750,000	702,748	700,000	
次年度繰越金	46,062	63,253	3,257	
支出合計	796,062	766,001	703,257	

\*備考欄の会員数：

2016,2017 年度の入金率を基に、想定した入金率を現在の会員数と掛け合わせ、算出しています。

## 研究会報告

テーマ 「ダイバーシティとは何か？ー女性研究者支援との関わりでー」

日 時：2018 年 1 月 27 日（土）14：00～17：00

会 場：青山学院大学 青山キャンパス 8 号館 4 階会議室

登壇者：江原由美子（横浜国立大学）

文部科学省の女性研究者支援関連の補助事業の名称が、「女性研究者」を付したのから「ダイバーシティ研究環境」をうたうものに平成 27 年度あたりから変化してきている。その理由はいろいろな資料から察するに「女性研究者支援に対する理解を増大させるために科学技術発展のための人材多様化という目的を明らかにすることが必要だ」ということらしい。これに伴い、大学内の女性研究者関連のセンターなどの名称も「男女共同参画」の語を付したのからダイバーシティの語を付したものに變更されてきている。他方、これでは女性研究者に焦点を当てた施策が少なくなるのではという不安も広がっている。

ダイバーシティとは「多様性」のことで、ここでは言語・宗教、性別、セクシュアリティ、障害の有無、年齢等の様々な社会属性の多様性をさす。従来日本では、これらの属性が、社会通念における上・下と関連付けられ、否定的な評価を受けた人々（労働力としての女性、マイノリティなど）は、差別や偏見に苦しんできた。しかし、近年は社会組織等における人々の「多様性」が、むしろ「創造性」「生産性の向上」等、組織目的にとってプラスの効果をもたらすとして、「ダイバーシティの推進」がうたわれるようになってきた。

たとえば、企業では組織目的である「利益の獲得」のためには「人材の多様性」が必要だ、という考え方が一定程度定着してきている。大学の場合には「教育・研究・社会貢献など」の組織目的に人材の多様性を推進したほうがよい、ということになる。そして、女性研究者問題という場合には女性以外の人々の関心を獲得しにくいのに、それがダイバーシティ研究環境の一環として位置づけられることによって、大学の組織目的に関する問題となり、組織の意志決定において、その問題の持つ重要度をあげるということになると考える人も多い。

ただし、他方では日本におけるダイバーシティという捉え方への危惧もある。欧米でダイバーシティという場合、その根底には、人権視点に基づく「差別是正」や「人権尊重」等の「人権視点からのアプローチ」がしっかり根付いている。しかし、日本社会では、これまで「人権視点からのアプローチ」による女性やマイノリティの処遇の改善が十分には進まなかった。そのままで「ダイバーシティの推進」というアプローチをとれば、それは「人権無視の女性やマイノリティ活用」、つまり、差別や偏見に基づいた従来の雇用体制のもとで低賃金労働により一層マイノリティを利用することにつながりかねない。

そうであれば、ダイバーシティの推進は「イノベーション」や「社会的統合」などのプラスの効果を生み出すこともないだろう。なぜならそれは、女性やマイノリティを管理職等より上の職位に登用すること、



またマジョリティとマイノリティ、男性と女性間のコミュニケーションを活性化すること無くしては、生じえない効果だからである。

ゆえに、日本における一層の「ダイバーシティの推進」を考える場合、最も重要なことは、「人権視点からのアプローチ」が基礎であることを、しっかり確認していくことだと考える。「ダイバーシティ推進」の肯定的効果は、「人権視点からのアプローチ」を前提とすること無くしては、生まれえないのであるから。

## 日本学術会議におけるジェンダー関連のシンポジウム報告

テーマ 「移民と人間の安全保障をジェンダー視点で考える」

日時：2018年6月9日（土）

場所：日本学術会議講堂

主催：日本学術会議（社会学委員会ジェンダー研究分科会）

共催：国際ジェンダー学会

登壇者：タン・ダム・トゥルン 前オランダ国立社会科学研究所（ISS）

伊藤るり（津田塾大学）

コメント：尾家康介（弁護士）、齋藤百合子（明治学院大学）、柘植あづみ（明治学院大学）

### 内容紹介

このテーマの背景には、国境を越えて移動する人々の人間の安全保障に、ジェンダーの視点が不可欠とされながら、それがまだ十分に浸透していないことがある。

本シンポジウムは、移住者/移民への政治・経済面の対応や、個々人の視点に立って、人間の安全保障におけるジェンダーの課題について議論し、解決の道を探ることを目的としている。

最初に、移民・人間の安全保障とジェンダー研究者である、タン・ダム・トゥルン博士（Dr.Thanh-Dam Truong：前オランダ国立社会科学研究所（ISS）准教授）により、“Securitizing Borders in the EU：Implications for Understanding Gender, Race, Sexualities and Migrants’ Access to Social Citizenship”と題する報告が行われた。

同報告ではまず、移民研究において、「インターナショナル・マイグレーション」から「トランスナショナル」な移民問題へのパラダイムシフトが生じている点が指摘された。つまり、移住者自身が独自のネットワークをつくっていくことなどのトランスナショナルな「場」や、単に地理的にみるだけでなく、出身国との関係などを含めたソーシャルな「空間」に焦点を当てることの重要性が示された。また、EUにおける人身取引の問題、国際組織犯罪防止条約採択以降の移民流入の変化、EU拡大の過程で生じた「排除」の構造と難民受け入れの際の Humanitarianism の変化などが、今日の EU における移民問題に新たな課題を投げかけている様子が明らかにされて、大変刺激的な報告であった。

続いて、伊藤るり教授（津田塾大学）が、「移住家事労働の拡大と『人間の安全保障』—日本社会にとっての含意—」と題する報告を行った。報告者は、フランスにおけるフィリピン人移住家事労働者への調査研究を継続しているが、日本の移住家事労働者について、それが国家の安全保障の枠組みのなかで考えられてきたのではないかと、という問いから出発して、不熟練にさせられた職業としての家事労働や、見過ごされてきた移住家事労働者の特徴について言及した。また、アメリカにおける家事労働の賃金保障に比べて、日本の場合、女性の活躍推進のための家事労働者の存在という位置づけにとどまっていることも問題とされた。まず、国民とその国に滞在する移住労働者を含めた人間の安全保障を基本にした上で、国家の安全保障を考えるべきである、という報告者の主張が印象的であった。

以上の2つの報告に続いて、3名の討論者による報告・コメント・質問が行われた。具体的には、尾家康介弁護士による「人間の安全保障と現代の奴隷—日本の移住労働者」、齋藤百合子客員教授（明治学院大学）による「人身取引後の人間の安全保障—移民女性の視点から」、柘植あづみ教授（日本学術会議連携会員：明治学院大学）による「性から考える人間の安全保障の課題」であった。それぞれの専門分野からの移住労働者と人間の安全保障に関する報告は、ジェンダー問題に新たな論点を加えて、本シンポジウムの内容をより充実させるものとなった。（廣瀬真理子）

## 緊急 非常勤講師アンケート、暫定報告

JAICOWS 会長 羽場 久美子

この度、JAICOWS と首都圏非常勤組合、関西非常勤組合で実施しましたアンケートの結果を、簡単に次にご報告しておきます。アンケート方法、時期などは後日詳しく報告します。

現在、国公立の大学の 6 割、私立の大学では 7~8 割を占める非常勤講師の実態と問題点、その研究教育活動の保証と改善については、決して本人たち任せにする課題ではなく、国や全国の大学にとっても、また女性研究者の研究条件改善に尽力することを課題とする JAICOWS にとっても、緊急に改善していくべき課題であると位置づけております。

教育改革や人権の点からも極めて重要な非常勤講師の実態の把握について、全体を網羅したものとは言えないまでも、短期間で 711 名の有効回答をいただきました。

皆様から赤裸々な声も多数いただき、公開と出版に値する貴重なデータとなったことを心より感謝しております。ご協力いただいた方々には本当にありがとうございました。

いずれさらに詳細な分析と公開が必要と考えておりますが、とりあえず基本的なデータのご報告を取り急ぎさせていただきます (Web アンケート、用紙によるアンケートの合計の結果です)。

回答者 711 名中、女性 384、男性 323、その他 4。年齢は 30 代と 40 代を合わせて 469 名、50 代を合わせると 86%となる。専門領域は人文・社会・語学で圧倒的多数を占め、自然科学は少ない。担当コマ数は、3~4 (25%)、1~2 (22%)、5~6 (17%) と、1~6 で 64%を占める。担当校は 1~4 校が 634 人で、9 割近い。勤続年数は、2 年以上 10 年未満が 58%と過半数を占めるが、見逃せないのは 20 年以上が 13%に達していること。また賃金では、200 万円未満が 69%と、ワーキングプアの状況が 7 割近くに達している (他の所得源がある場合もある)。うち 50 万円未満も 21%で、100 万円未満も珍しくない。まさに常勤の賃金に比べて 10 分の 1 程度と、非常勤の悲惨な実態が明らかになっている。

そうした中での喜びは、「学生に自分の知識、経験を学生に伝えること」で 61%。不満は、「収入が少なく身分が不安定であること」で 80%、困ったこと (複数回答) については、「賃金が低く、生活が不安定」、「研究費が少なく」、「簡単に解雇される」が圧倒的多数を占めるが、合わせて、その他について大量に切々たる実態と悩みが書かれている。

雇止めについては「すでに始まっている」が 49%で、「そうしたケースがない」、ないし「知らない」が 51%で分かれた。

雇止めについては、「困る」、「許せない」が 42%、「無期契約にしてほしい」が 42%、困ったときに相談する場所は、非常勤仲間か専任教員がほとんどで、組合に相談することは少ない。改善してほしいことは、収入の増加、身分の安定についてほぼ 600 人以上が複数回答しており、喫緊の課題である。また研究費の支給についても 477 人が希望している。

語学 (英語) の非常勤講師で、2020 年から語学の入試が TOEFL など外部試験に代わることについては、語学担当教員については 81%が知っているがその影響が語学教員の雇止めなどに出ていることを知らない人が 57%であり、大学からきちんと説明があることを求めている。

最後に悩みを自由形式で書いていただいたところ、ほとんどの方々から具体的で赤裸々な悩み・不満や状況改善要求が膨大に記述されており、この部分だけでも緊急に公開、出版する必要がある。また何より大学教育の半分から 7 割に至る教育活動を担いながら、大学という本来人権に最も敏感であるべき場で、賃金も低いまま不安定な身分状況に長期にわたり置かれている非常勤講師の実態を認識し、国と大学が早急に改善策を示していく必要を痛感する次第である。

ご協力いただきました非常勤講師の皆様には心より感謝いたしますとともに、この実態を早期に公開し、少しずつでも改善につなげられるよう、JAICOWS としても、非常勤講師組合や学術会議とも可能な限り連携しつつ、さらなる実態把握と改善に努力していきたいと考えております。皆様のご協力、本当にありがとうございました。

## 新入会員と退会者について

### 新入会員

お名前	所属	専門分野
野尻 美保子	高エネルギー加速器研究機構	素粒子論
伊藤 恵理	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所	航空交通管理
松原 知代	獨協医科大学埼玉医療センター	小児科
來田 享子	中京大学	体育・スポーツ史
月田 早智子	大阪大学大学院	細胞生物学
大場 みち子	公立はこだて未来大学	ソフトウェア工学
大野 由夏	北海道大学大学院	経済政策

### 退会者

お名前	所属	専門分野
岸本 美緒	お茶の水女子大学	歴史学
桜井 万里子	東京大学名誉教授	古代ギリシア史
田村 照子	文化学園大学	家政学, 衣環境
池上 幸江	大妻女子大学名誉教授	生活科学 食物・栄養学
飯田 貴子	帝塚山学院大学	スポーツ社会学
永田 典子	日本女子大学	細胞生物学
國井 秀子	学校法人芝浦工業大学	工学マネジメント

(この号は、直井道子(東京学芸大学名誉教授)が係りでした。)

連絡先： 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会 (JAICOWS) 事務局  
 〒206-8515 東京都多摩市永山 7-3-1 国士舘大学体育学部 田原淳子研究室  
 Tel・Fax : 042-339-7294 (研究室直通)  
 E-mail : tahara@kokushikan.ac.jp  
<http://side.parallel.jp/jaicows/>

事務センター： 株式会社ワールドプランニング  
 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル  
 Tel : 03-5206-7431 Fax : 03-5206-7757  
 E-mail : world@med.email.ne.jp

郵便振替口座番号： 00100-8-542793  
 ゆうちょ銀行 ○一九 (ゼロイチキュウ) 店 当座 0542793  
 (口座名義) 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会